

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-B-20-0052_改0
提出年月日	2021年3月19日

VI-3-3-3-6-3-3 原子炉補機代替冷却水系熱交換器ユニット(ストレーナ)
の強度評価書

2021年3月

東北電力株式会社

一般産業品の規格及び基準への適合性確認結果（メーカー規格及び基準）（原子炉補機代替冷却水系熱交換器ユニット（ストレーナ））

I. 重大事故等クラス 3 機器の使用目的及び使用環境、材料及び使用条件

種類	使用目的及び使用環境	材料	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)
サイクロン型	重大事故等が発生した場合において、原子炉補機冷却水系に接続し、大容量送水ポンプ（タイプ I）により海水を送水することで熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送することを目的とする。使用環境として屋外に設置した熱交換器ユニットに搭載され、ユニット内で海水をろ過する。	銅板： <input type="text"/> 底板、ふた板： <input type="text"/>	1.20*	50*

注記 *：重大事故等時における使用時の値を示す。

II. メーカー規格及び基準に規定されている事項（メーカー仕様）

機器名	使用目的及び想定している使用環境	材料	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	規格及び基準に基づく試験
サイクロン型	配管中に設け、流体中のごみ等を捕捉することを目的とする。使用環境として屋内外に設置した熱交換器ユニット内で海水をろ過することを想定している。	銅板： <input type="text"/> 底板、ふた板： <input type="text"/>	1.20	50	耐圧試験（試験圧力：1.8MPa，試験保持時間：10分）を実施。

III. 確認項目

(a) : 規格及び基準が妥当であることの確認（I と II の使用目的及び使用環境の比較）

当該ポンプは、重大事故等時に海水をろ過するために屋外（ユニット内）で使用するストレーナである。一方、本メーカー規格及び基準は、発電、製鉄プラントなどで使用することを目的とした一般産業品に対する規格であり、当該ストレーナは屋内外（ユニット内）で海水をろ過することを想定している。重大事故等時における当該ストレーナの使用目的及び使用環境は、想定している使用環境の範囲内である。

(b-2) : 材料が適切であること及び使用条件に対する強度の確認（II と公的な規格等の材料及び試験条件の比較、I と II の使用条件の比較）

当該ストレーナに使用されている材料は、JIS G 3101「一般構造用圧延鋼材」とで使用可能な材料とされているである。また、これらの材料は設計・建設規格クラス 3 容器に使用可能であると規定されている。

当該ストレーナの最高使用圧力及び最高使用温度はメーカー仕様の範囲内であり、設計・建設規格 PHT-2311 及び PHT-4000 で規定されている耐圧試験（試験圧力：最高使用圧力×1.5 倍，試験保持時間：10 分間）と同等の試験条件の耐圧試験に合格していることを検査成績書等により確認できる。設計・建設規格のクラス 3 機器の最高許容耐圧試験圧力は機器の応力制限（降伏点）を基に定められており、耐圧試験の規定では、耐圧試験圧力は最高使用圧力の 1.5 倍の 106%を超えないこととしている。一方、設計・建設規格のクラス 3 機器の設計許容応力は降伏点に対して 5/8 を基準にしており、この設計許容応力以下となる必要板厚は、最高使用圧力を条件として評価式により求めている。よって、設計・建設規格 PHT-2311 で規定されている耐圧試験と同等の試験条件の耐圧試験に合格することで、メーカー規格及び基準の設計が設計・建設規格と同等の裕度を持っているものとみなせるため、当該ストレーナは完成品として要求される強度を有している。

IV. 評価結果

上記の重大事故等クラス 3 機器は、一般産業品としてメーカー規格及び基準に適合し、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において要求される強度を有している。